



関西いのちの電話



「さとにきたらええやん」

大阪Ⅱゾンタクラブ前会長
関西いのちの電話評議員 西村 博子

大阪十三の第七藝術劇場で公開されていました。
釜ヶ崎の児童館「こどもの里」の日常を追ったドキュメンタリー映画です。

私は十年前にこの児童館を訪れました。ある高校の総合学習の授業の一環でしたが、担当の先生、生徒たちと一緒に訪問したことから、この映画の公開を知ったとき、必見したいとすぐに思ったのです。

「こどもの里」は、大阪市西成区釜ヶ崎で38年間続く子どもたちの憩いの場、学習の場です。「さと」と呼ばれるこの場所では、0歳～20歳ぐらいまでの子どもたちを、障害の有無や国籍の区別なく無料で受け入れています。学校帰りに遊びに来る子どもも、一時的に宿泊する子どもも、さまざまな事情から親元を離れている子どもだけでなく、親も休息できる場として、それぞれの家庭事情に寄り添いながらの支援が続けられています。

映画は、さまざまな困難を抱えた子どもとその家族の日常、それをまるごと支援する「さと」の館長さん、若いスタッフたちの関わり、街の人々の奮闘が映し出されています。厳しさや優しさだけでなく、一人一人に共感し、絶妙な距離感で添う支援の中で、子どもたちは日々成長していきます。確かに「さと」は、地域の集いの場として、さまざまな困難や生きづらさを抱える子どもと親のこころのよりどころになっています。それは「居場所」としての大切さを語っていました。映画をみた当日は、ラッキーなことに、監督重江さんの舞台挨拶がありました。「この映画で感じたことを、それが周りの人に伝えてほしい」と。私は「支援を必要としていない子どもはいない」という発達障がい支援セミナーのナチュラルサポートのお話を同時に思い起こしていました。



永観堂(京都) 撮影:岡本 悅子

「関西いのちの電話」は、ご承知のように24時間、365日、眠らぬダイヤルです。多くのボランティアの相談員の方たちがこの活動を支えて下さり感謝にたえません。「いのちの電話に電話してたらええやん!」「いつでも電話しておいでね」悩んだり、気持ちが落ち込んだ時こころの整理をしたり、ふと自分のことに気づいたり、生きるというみんなの願いが一つになればいいなあと…応援しています。

関西いのちの電話 相談電話（24時間365日）☎06-6309-1121
自殺予防いのちの電話 毎月10日 午前8:00～ 翌午前8:00 ☎0120-783-556

関西いのちの電話 第21回チャリティーコンサート

バイマーヤンジン コンサート

天空にとどけ！ 大地の歌声

開催日：2016年10月14日(金) 場所：大阪市中央公会堂 大集会室



チベットの歌姫・バイマーヤンジンさんのコンサート「天空にとどけ！大地の歌声」が、10月14日午後6時半から、大阪市中央公会堂大集会室で開催された。

タイトルにふさわしく、白と青の地に花柄の民族衣装に赤

や茶色で豪華に刺繡をした帯、サンゴ色の珠をあしらったアクセサリー、真っ白な毛皮の帽子という綺爛たるいでたちのヤンジンさんは、にこやかな表情で登場。柴田亜里沙さんのピアノなどの伴奏で計10曲を歌い上げた。青空高く吹き渡る澄み切った風のような透明な声は、約650人の聴衆を魅了、盛大な拍手を受けた。

披露した曲は、天に一番近い大地、チベットにふさわしい「太陽と月」、心のよりどころの雪山を歌う「聖山」、ダライ・ラマ6世が作った恋の歌「マギアミ」などのチベット民謡や、「赤とんぼ」「五木の子守唄」といったおなじみの日本の歌など。最後に歌った「朝はどこから」では、会場から手拍子が沸き起こった。

歌の合間には、関西なまりの流暢な日本語で、大家族で育ったことや10歳になる長男の子育ての苦心、震災救援のボランティア体験、自殺者の多い日本でのいのちの電話への期待などをユーモアたっぷりに

語り、会場からは何度も驚きの声や笑いが起こった。

ヤンジンさんは、故郷の子どもたちの教育支援を長年つづけており、9つの小学校と中学校1校が開校、17年前から大学生への奨学金を出す活動もしている。先月、チベットを訪れた体験では、なかなかビザが下りずに苦労したこと、現地でもスマホが流行りだしていることを紹介。かつての奨学生で大学医学部の教官になった女性がホテルに尋ねてきて、食事に誘ってくれ、自分も奨学制度に協力すると語った時には、抱き合って感激したという。

また、関西いのちの電話の活動について、「命というのは生きていく力そのもので、家族や周りの人たちに支えられている。関西いのちの電話は多くの人たちの生きていく力を支えている貴重な場です」と思いを語ってくださった。

コンサートを終えたヤンジンさんは「大阪は第二のふるさと。お客様の暖かい心と支援の思いに触れ、とてもうれしかった。これからも、チベット文化の紹介とふるさとの教育環境向上のため歌いつづけたい」と話していた。



関西いのちの電話 第35回公開講座

今、生きているあなた～そのかけがえのなさ～

講師：柳田邦男 氏（ノンフィクション作家）

日 時：2017年2月18日土 ○13:30 開演（13:00 開場）

場 所：大阪YMCA会館 2Fホール TEL:06-6441-0893 大阪市西区土佐堀1-5-6

申込先：電話：06-6308-6868 FAX：06-6308-6180 E-mail:kaind@age.ac

お申込み後、当日受付にて参加協力費（1,000円）をお支払いください。尚、座席に限りがございますのであらかじめご了承ください。
※当日申し込みの場合、参加協力費は1,200円です。

●プロフィール／やなぎだくにお
栃木県生まれ。東京大学経済学部卒業。
NHK記者を経て作家活動に入る。現代における「いのちの危機」をテーマに、数々のノンフィクション作品や評論を半世紀にわたって書き続けている。最近は、ネット社会の問題点と絵本・読書の新しい意義について積極的に発言。また、生き方や終末期医療に関する著書も多数出版している。最近の主な著書に『新・がん50人の勇気』『自分を見つめるもうひとりの自分』『大人が絵本に涙する時』などがある。

エルダーものがたり IV



16歳：吹奏楽の衣装を着て

中学校に入った。今度は経済レベルの高い子たちと一緒にいた。あまり気にしなかったがある日、「社会」の授業で家族収入の貧困レベルの数字を知った。私の家族はその半分だったのでショックだった。でも先生は、「家族によって、お金があまり無くても、小さな畑を作ったり、鶏を少し飼ったりして、色々な工夫をしてやっています」と言った。私の担任だったので、家族事情が分かっていた。先生が好きになつて、家での手伝いは楽しくなった。

もし私がプラスバンドに入ったら、中学校で友達ができるだろうと近所のおばさんの助言があった、親が頑張って安いクラリネットを買ってくれた。それは私の人生の大きな事となった。それまで知らなかった音楽が好きになって、割とできるようになった。そして中学校を卒業しても、続けたかった。

私の行きたかった高校の吹奏楽団は全米でも有名で、市民の自慢だった。コンクールは全米で地域に分かれていたが、八つの州の地域で、ファースト・バンドは毎年優勝した。セカンド・バンドは毎年、州のコンクールで優勝する程、高いレベルだったので入りたかった。

私は高校のセカンドの先生に自分のレベルを見せた。彼は黙って私の安っぽいクラリネットを見て、「実はもう一人、アルト・クラリネットが欲しい。学校の楽器を使っていいからやって見ないか?」と。私は喜んで、「はい!」と答えた。セカンドで、一番下で入ったが、暫くして、少し自信が出て来たので、上の人にチャレンジした。皆の前で二人が同じ曲を吹く。私は緊張してしまい、息が切れて散々だった。ある人は「二人は同じ曲をやっていたのか?」と言った。痛い言葉だった

が、自分でもだめだと分かった。

私は猛練習して、ファースト・バンドの人にはチャレンジすると伝えた。これは大変だ! ファーストはクラシックばかりやっていて、チャレンジは彼らが毎日練習している中から選んだ所をやる。そして有名なファーストの先生が決定する。三週間後、先生の前で吹いた。先生は「交替しない」と言った。「やった!」と思った。それからはとても楽しく少しづつ腕を磨いて行った。三年目にCBCラジオのクラシックアワーで全国放送したが、私はアルトの首席となっていた。最高の気分だった。こうして、クラシック音楽は私の人生の宝物となった。

もう一度中学時代の話にもどるが、中学三年になつた時の宿題として、自分は将来、何になりたいのかを書くという事だった。前に書いたように、教会は私にとって、素晴らしい所だった。私の事も、アルコール問題の父も暖かく受け入れてくれた。そして、私はいつも牧師の指導をよく見ていた。収入は少ないのに、自分の家族の自由な時間も忙しい。しかし、皆の事をよく見て、キリストの愛、その中で私達はどう生きたらいいのかを、色々な言葉で、色々な行動で伝えていた。私は人の前で緊張して、話はできない、そんな私はとても牧師にはなれないが、「何になりたい」と言えば、それでも牧師になりたかった。

クラスメートは笑うだろうと思ったが、誰も笑わなかった。担任の先生は、「牧師になりたい人は良く天からの声を聞いたとか言うが、ビルは牧師のやっている事をよく見て、そうなるために自分の問題点をよく見て、良く書きました」と言われてすごく励まされた。私は本当にそなりたいと前へ一步力強く進んだ。

ウィリアム・エルダー (William Elder)

1926年生まれ。1948年宣教師としてアメリカから来日、以来68年間日本在住。1973年東京英語いのちの電話(TELL)設立時の研修に関わり、1980年に関西いのちの電話の研修担当として相談員の育成に尽力し、現在もグループリーダー、スーパーバイザー、養成講座講師など関西いのちの電話の重鎮である。指導における温かい視点、そのわかりやすさには定評があるが、何より人間性の豊かさ、懐の深さに感銘を受けることが多い。大阪女学院短期大学名誉教授。

あたたかいご支援ありがとうございます

2016年6月1日～2016年10月31日までに、次の方々から社会福祉法人関西いのちの電話への寄付またはバザーなどへのご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

(五十音順・敬称略)

【個人】

浅野 敏行	大塚 昭男	北之坊皓司	笑福亭松枝	玉田 淑江	藤原 正巳	山本 雅司
荒井 美香	大塚 伸二	吳 美憲	菅谷 道子	坪内 憲治	松下 明子	脇坂 裕
荒木 寛子	大津 久直	小林 文子	杉浦眞喜子	道免 逸子	真野 和子	匿名 1名
荒屋 昌弘	岡崎 信惠	小村 典子	杉山 邦子	中崎 正樹	三浦 直之	
石野 泉	小頭 誠	酒井 俊一	角田美津子	中田 仁	水鳥 健二	
石原 紘	小川 弘二	佐々木良子	園木 紀子	中谷 治	宮武 明子	
伊保ヒロ子	尾崎 雅子	佐野由紀子	高尾 有	長沼多恵子	村本 延子	
入江 和廣	片山 巍	幣原 直子	竹村 武男	中野 爲夫	望月 拓郎	
入江 保夫	加藤 昌子	柴崎 隆士	田尻 量平	中野 桂子	桃井 純子	
江寄 和子	神谷 尚孝	島田 榮一	田中 貴子	新田 精一	森田 和典	
大久保萬里子	川崎 和美	島田 恒	田中 豊子	日野 哲雄	山内 通生	
大坂 雅巳	神田 葉子	清水久美子	田辺 昌良	平野 雄士	山口 健一	

【団体】

愛徳カルメル修道会 垂水修道院	(医)菱仁会かめだクリニック	田中医院	前久保クリニック
阿武メンタルクリニック	川田メンタルクリニック	ドミニコ会聖ヨゼフ修道院	正岡クリニック
大阪帝塚山ライオンズクラブ	河電産業株式会社	ナレッジパートナー株式会社 大阪オフィス	まつしま診療所
大阪東淀ちゃんまちロータークラブ	京谷クリニック	日本カトリック教会箕面教会	(株)マツヤ
大阪ひごばし法律事務所	合資会社 寿屋	日本基督教団箕面教会	渡辺クリニック
大阪ロータリークラブ	コニシ株式会社	日本基督教団大阪教会初穂会	
大阪YMCA学院	菅原天満幼稚園	宗教法人 築天宗	
聖心会 小林修道院	ソウルスター(株)	融通念佛宗 法藏寺	

バザー等協力【個人】

池尻 順子	植杉 典子	阪本佳代子	幣原 直子	高宮 尚子	伊達 真理	古坂 啓子
井上 恵子	岡本美智子	志方登美子	住田 幾子	田尻 嘉郎	中山 珠江	

バザー等協力【団体】

愛徳カルメル会修道会垂水修道院	大阪YMCA本部事務局	(株)ダイドー織維	六甲山YMCA
愛徳カルメル会修道会本部修道院	大阪北摂YMCA	(株)東リ	YMCAサンホーム
江崎グリコ株式会社	大阪南YMCA	富田接骨院	
大阪YMCA国際専門学校	株式会社コラントッテ	みずほ法律事務所	

◎他に相談員75名と相談員有志・実習生・理事・監事・評議員が支えています。

こんなこともやりました！ありました！

- ・7月28日 大阪府自殺対策審議会会議
- ・8月29日 神戸市立平野中学校にてKAIND劇団公演
- ・8月30日 大阪府被害者支援実務担当者会議
- ・9月21日 大阪帝塚山RC社会奉仕基金助成金贈呈式にて卓話
- ・9月30日 大阪市自殺防止対策部会会議
- ・10月4日 豊中市自殺対策ネットワーク会議
- ・10月20日 公開セミナー＆ボランティア説明会
- ・10月23日 園田学園大学・けやき祭講演

2016年7月～11月の活動の一部をご紹介します。

- ・10月26日 西宮市甲東地区婦人学級講演
- ・10月28日 堺人権擁護委員協議会研修会講演
- ・10月29日 日本心理職協会西日本統括本部研修会講演
- ・11月10日 豊中市立桜塚高校にてKAIND劇団公演
- ・11月11日 大阪YMCA学院高等学校 講座「共生社会」講義
- ・11月12日 アジア学院講演
- ・11月18日 大阪YMCA学院高等学校 講座「共生社会」講義

歳末募金をお願いします

- 24時間・365日「眠らぬダイヤル」として
相談活動をおこなっています

お振込先 ※社会福祉法人へのご寄付は税制上優遇されます。

口座名義：社会福祉法人関西いのちの電話

口座番号：ゆうちょ銀行 00990-3-68480

：三井住友銀行 十三支店(普) 998829

第34回 いのちの電話相談員全国研修会 なら大会に参加して

去る9月15日～17日の三日間、いのちの電話相談員全国研修会なら大会が天理市において、合宿スタイルで実施されました。

心に残っているのは「いのちの電話」の活動は、目立たずに匿名性を守る中で「寄り添い人」を目指すことだという大会テーマの言葉です。もちろん養成講座や研修を通じて、これまでにもボランティアの意味や相談員としての心得などを関西いのちの電話で学んできました。今回大阪を一歩出て、全国大会に参加したこと、相談員活動を続けていく上で原動力となる人としての本来的な優しさや、一期一会での相手を思う心というものを多くの場面で、肌で実感することができました。

一例ですが、今大会実施に当たり、どれほど多くの奈良いのちの電話の方々がボランティアとして動いてくださったことか。参加者の誘導、宿舎や食事の手配、会場の準備、移動のためのバスの手配、講座や交流会の構成と運営、せっかく奈良の都にきたのだからと観光スポットにまで案内していただきました。同じ目的で活動している仲間たちを最大限の

もてなしの心で迎えようとしてくださる奈良の方々の心意気と優しさが身に沁みました。

特筆すべきことがもう一つ。関西いのちの電話のサポーターによるKAIND劇団の朗読劇をこの場で鑑賞できたことです。内容に感動したことはもちろんですが、会場からの大きな拍手が、自分のことのように誇らしくうれしかったです。 (Y.K)



▲写真：こころの体験講座（帶解寺）

KAIND劇団「声のぬくもり」を披露

奈良いのちの電話のご好意により、2日目の交流会において、KAIND劇団が「声のぬくもり」を披露しました。

これは、中学生の女の子が学校や病気のことに悩み、いのちの電話に電話をし、相談員の声のぬくもりにふれることで、元気を取り戻していく朗読劇です。女の子の思いつめたような声、相談員の温かく包み込むような声のやり取りが、相談電話をリアルに表現しました。聴衆は固唾をのんで聴き入り、最後の女の子のはじけるような明るい声にほっとすると同時に、惜しみない拍手をくださいました。そのフィナーレは、いのちの電話の意義の確かさを感じさせるものでした。

劇団員からは、「今まで、見てくださった人の、あれほどの熱意やひたむきな視線を感じたことはなかった」との感想が聞かれました。

相談ボランティア募集中
あなたも私たちの活動に
参加しませんか？

第53期 電話相談ボランティア養成講座のご案内

募 集 期 間 *随時（締切は2017年3月23日（木）必着）

養 成 期 間 *2017年4月～2019年3月（2年間）

講 座 内 容 *1年目は、1泊研修・1日研修・週1回の講義や実習があります。

(毎週の講座は主に木曜日・18:50～20:50)

*2年目は、インターとしての実習および各種研修があります。

電話：06-6308-6868 FAX：06-6308-6180
<http://www.kaindnew.com>

募集要項は事務局までご請求ください。ホームページからもダウンロードできます。



問い合わせることと共感 3

「瞬時の問い合わせ」

電話相談の目指すところは、隣人として「傾聴」に務め、相手が自らの力で、直面している状況から一步でも踏み出せるように、寄り添うことです。

このことを自分に問い合わせ、確認し、次に「いま、自分の内なるところに、湧き起こっている感覚や感情はどのようなものなのか？」を問い合わせる。この一手間を、受話器を取る前の準備にしてみるのは、いかがでしょうか。

そして、受話器を手にして、聞き手は、相手の言葉に耳を傾け、こんなことを頭の中で問い合わせているのではないかでしょうか。

例えば、この相手は、何に困ってかけてきているのだろうか。主な訴えの内容はどんなことだろうか。病気ではないのだろうか、家族との関係は？などという相手の話している話の内容や問題に関心を向けています。そして、相手の話している内容や問題にどのように応答をしたらよいのかなどと、相手が話

している物語や事柄に关心が集中していきます。

それと同時に、このかけ手の「いまの気持ちは？」との問い合わせを持ちつつ、応答を進めます。

そして、次の問い合わせは、自分自身へのものです。「いま、自分のこころの中に湧き起こっている気持ちは？」というものです。これは、「いま、ここ」という電話相談の場で、瞬時に移り変わっていく、かけ手と聞き手のそれぞれの感情と思考の動きに注意を向けることなのです。

「いま、ここで、相手と自分との応答の言葉の背後で、どのような気持ちのやりとりが起こっているのだろうか？」という問い合わせをすることです。

この問い合わせが、第3の眼、俯瞰的・鳥瞰的な観察を育てるのです。

この問い合わせの積み重ねが、私たちの電話相談を、安易な問題・課題解決に流れる誘惑に抗って、かけ手の気持ちに耳を傾け寄り添い、かけ手のこころがひらく開かれていく「傾聴」に踏み留まっているのではないかと思うのです。

(元大阪女学院大学 / 短大講師 長尾文雄)

「傾聴と共に感 ~寄り添い続けるために~」

長尾文雄 著 **発売中!**



●お申し込みは事務局まで (600円 送料別)
TEL:06-6308-6868 FAX:06-6308-6180
Email:kaind@x.age.ne.jp

創立43周年記念 バザーを終えて

創立43周年記念バザーは11月5日(土)、晴天の下開催されました。今年は博愛社幼稚園と同時開催のこともあり、多くのお客様にお越し頂きました。会場には衣類、食器、バッグ、靴、アクセサリー、雑貨等がたくさん並べられ、お客様が買い物を楽しんでおられました。



一方、中庭会場ではおでん、古本、CD、かやくご飯、おにぎり、飲み物、せんざい、フランクフルトソーセージ、チヂミ、子どもゲームなどたくさんの模擬店で大賑わい。『天然デンネンズ』のミニライブもとても盛り上がり、盛会のうちに今年のバザーを終えることが出来ました。

バザーにご寄贈いただいた企業様、ご参加くださった皆様に感謝申し上げます。(バザー委員会H.O)

この広報誌は、平成27年12月に実施されたNHK歳末たすけあい配分金を受けて作成したものです。府民(寄付者)のみなさまに感謝いたします。

編集後記

今号の巻頭記事、他の複数の記事から“支援”と“寄り添う”的言葉が浮かぶ。教育支援を続ける「歌姫」、子どもをまるごと支援する「児童館」、悩み・苦しむ人に寄り添う「いのちの電話」、そして活動を続ける個人・組織を支え応援する「多くの個人・企業」。

貧富の差、世代間格差が拡大していると言われる昨今、「生きづらさ」が増している。「支援が必要な人」「支援できる人」がつながり、つながりの輪が広がり、「寄り添い人」が増えれば「生きづらさ」が薄められる社会が!!

(H.S)

2016年 電話相談受信状況

受信月	6月	7月	8月	9月	10月
受信件数	2,090件	2,134件	2,073件	1,986件	2,015件
担当者数(延)	516人	550人	543人	529人	519人

社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局:〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72
TEL 06-6308-6868 FAX 06-6308-6180

発行人:李清一 編集:広報委員会

ホームページ <http://www.kaindnew.com>